ありし日の　加美尋常高等小学校　①

第２次世界大戦が終わって間もない昭和２４年の加美尋常高等小学校の写真です。皿川の手前には、まだ舗装されてない国道５３号線があります。そして、機関車が走っているのも見えます。

有名な建築家江川三郎八さん（真庭市遷喬小学校設計）が設計したありし日の木造校舎が見えています。校庭には、子どもたちの姿もあります。

加美小に新しくできているふるさとルームには、いろいろな資料を集めています。もし、お持ちの資料がありましたら、教えていただければ幸いです。

このころの思い出を
現在東京にお住まいの
黒瀬美代子様が
送ってくださいました。
今も生き生きと感じる
思い出の数々をご紹介します。

・入学の記念に、校庭の隅に桜の木が十本ぐらい植えられた。
・教科書は、国語、音楽、算数くらいしかなかった。
・ランドセルは、厚紙を重ねて色を塗って作られていて、六年間はもたなかった。高学年になって自分で袋を縫った。
・通知表はB5のざらし一枚で、かざすと穴があいていて、でこぼこしていた。
・モンペにゴム靴、夏は足がぬるぬるして、歩きにくかった。
・校歌のお披露目が、校庭で行われた。プロの伴奏と歌が空に響き渡り、とても誇らしげな気持ちになった。
・低学年の遠足は、近所の段々畑のようなところでお弁当を食べた。

（つづく）